

【科研費応募支援ニュースレターNo.20】 発信日 240319
タイトル_令和7年度科研費申請に向けて

教育職員各位

URA 高木敦子

いつもお世話になり、感謝申し上げます。URAの高木敦子です。
先日、2月29日に令和6(2024)年度 科研費申請の審査結果通知が届きました。
申請課題62件中、採択は7件でした。たいへん厳しい結果となりました。内訳は基盤
B 1件、基盤C 5件、若手 1件となっております。このような厳しい状況の中にも
かかわらず、採択なされました先生方には、心よりお祝い申し上げ、日ごろからのご努
力に深く敬意を表したいと思えます。また、残念ながら採択に至らなかった先生方に
も、ご多忙の中、申請をしていただきましたことに対し、心より感謝申し上げます。

申請なされなかった先生方の中には、研究においてあまり研究費が必要な研究分野で
はないため、申請はされなくとも、業績は挙げておられるという場合もあると思いま
す。一方、研究費がもう少しあれば、もっと研究が進むのにと考えておられる場合もあ
るかと思えます。

今回、採択に至らなかった先生、科研費申請をして研究を進めたいとお考えの先生
は、今から令和7年度科研費申請の準備をお願いしたいと思います。前者の先生にはお
そらく4月頃、審査結果開示が行われる予定です。その前にご自身が審査委員になった
として、ご自身の申請書を「4：非常に優れている」、「3：優れている」、「2：普
通」、「1：劣っている」の絶対評価で（できれば小数点1位くらいまで）、評価して
みてください。

〔評定要素〕は次の通りです。

- (1) 研究課題の学術的重要性
- (2) 研究方法の妥当性
- (3) 研究遂行能力及び研究環境の適切性

評定要素の詳細は資料1をご覧ください。もし、「2：普通」か「1：劣っている」
を付けた場合には、その理由を選択する必要もあります。

自己評価と4月頃開示される審査結果と比べてみてください。そこに大きな解離がある
項目があれば、特にその項目に関しては、次の科研申請書作成において、審査委員目線
になり、審査委員に評価されることを第一優先にお考えいただければと思います。もち
ろん、ご自身も審査委員も低い評価点の項目は是非とも改善をお考えください。

科研費申請書作成で大切なことは、評定要素にあるとおりです。計画通りにいかなか
った場合の対応も含めて、綿密な研究計画、見やすくわかりやすい記載、実行可能性の
高さのアピールができていることが、採択されるための必要条件になると思います。こ
の必要条件を備えた申請書の中で、採択される申請書として選ばれるためには、申請課
題が学術的に重要であること、独創的であることが大切です。研究課題が備えるべき条
件は、

- 実施可能性 (feasible) __ 補助事業期間の間に結果が出せる
- 興味深さ (interesting) __ 申請者のみならず、審査委員に対しても
- 新規性 (novel) __ 過去の知見を十分に確認し、どの点が新しいか申請課題の立ち位置を明確にする
- 倫理性 (ethical) __ いうまでもなく
- 必要性 (relevant) __ 申請課題の研究による知見が社会に何をもたらすかといった視点での意義づけ

これらを備えた課題、つまり重要な課題とは、2つに分類できるかと思います。一つは誰もが重要と考え、できるだけ早く解決しないとイケないと考えている課題。もう一つは、誰もが気づいていなかったが、言われてみれば重要なことだと皆が納得する課題です。皆というのは審査委員と置き換えていただくと良いと思います。限られた予算の中で、それも原資は国民からの税金を使用して進める研究課題は、審査委員としても解決を優先する重要課題を選ばざるをえないと考えます。なかなかすぐには解決できそうにない課題であっても、基礎研究であっても、補助事業期間終了時には、何らかの成果がみえることが必要だと思います。逆に言えば、そういうものを課題にあげる必要があるということと考えます。重要課題で自分が、そのどこかに貢献できる、成果が期待できることを選んで書くということです。また、あとに述べますが、解決レベルの設定、どこまでを明らかにするのかを考え、明確に示すことも大事です。

実際、現在、先生が申請されている課題が審査委員に重要な課題と理解されていない、つまり評価項目(1)の点数が低い場合には、どうしたら良いかを個人としての見解ではありますが、書かせていただきます。

この項目に先生ご自身による採点と審査委員の採点に解離が見られた場合には、先生は重要な課題とお考えなのに、それが審査委員に伝わっていないということになります。審査委員に重要な課題とと思っていただくには、今、誰もが重要で早急に解決すべきと考えている課題、例えばSDGsの17項目や日本における緊急を要する課題である地震などの自然災害、少子化、高齢化社会、ジェンダー平等の遅れ等のどれかに関連付け、それらの解決に役立つことをアピールする等、あるいは、今回申請書に書かれた課題は、別の研究費(個研費等)で遂行し、審査委員が重要と理解されそうな別の課題で次回の科研費申請を行うなどの方法があるかと思います。また、申請区分により、重要課題が異なることもあると思いますので、申請区分を考えなおしてみるのも良いかもしれません。

その時には、過去の審査委員の情報(https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/03_shinsa/shinsameibo_r03.html)も役立つかもしれません。(ご存じの通り、現在の審査委員は任期が終わるまで、公開されません。)

いったいどのような課題を審査委員が重要と考えられるのかという点につきましては、KAKENデータベース(資料2)が非常に参考になると思います。

KAKENデータベースで、今回の科研費申請の採択課題が反映されるのは、おそらく来年の1月か2月頃と思われるので、今回、先生が申請された区分の過去の採択課題などをご覧いただき、どのような課題が重要課題と審査委員に認識されているのかをご確

認いただけましたらと思います。KAKEN データベースを使い倒す位の気持ちで、ご利用ください。

民間企業が、KAKEN データベース以外にも AMED や NEDO その他多くの省庁などからのデータを集めて、日本国内の研究のデータベースを作っている「日本の研究.com」(<https://research-er.jp/>)というサイトもあります。研究費の長者番付やトピックとなっているキーワードなども示されており、どのような研究課題が採択されているかなど、興味深くみることができます。ご自身と同じ申請種目のものを参考にされるのが良いと思います。

次に、『できる研究者の科研費・学振申請書』（科研費.com 著、講談社、2019 年 1 刷、2022 年 7 刷）（産研事務室にも 1 冊ありますが、<https://kakenhi.com/>においても冊子体と少し違いますが見ることができます）から、課題の重要性に絞って、見てみます。

ここでは、「良い申請書とは、面白い研究テーマ＝重要性×解決レベル×多様性×解決スピード」と書かれています。課題の重要性だけでなく、それをどこまで解決するかという解決レベル（他の研究者ができないが、独自手法や独自アイデアのある自分ならできぎりぎりのところを選ぶ）、他人と同じようなことはせず（多様性）、研究期間内になんらかの成果を見込める（解決スピード）課題を選ぶのがよいとのこと。著者は、千利休の名歌「人の行く 裏に道あり 花の山 いずれを行くも 散らぬ間に行け」を挙げられていました。

何をするにも、早いスタートが大事かと思います。今日から、1 日の中の 10 分でも科研費申請のことをお考えいただき、ひとつでも何らかの行動を起こしていただけたら、たいへん幸甚でございます。

科研費申請のみならず、他の一般財団助成申請、その他必要がございましたら、いつでもお声がけください。外部資金獲得以外でも、研究に関わりますことがありましたら、とりあえずお伺いにあがります。現在、公募期間中の特別研究員—DC 申請、研究活動スタート支援の申請の支援依頼も入ってくるかと思っておりますので、なるべく早いご連絡を楽しみにしてお待ち申し上げます。

本学 web サイト【研究・社会連携≫科学研究費助成事業】ページ内に、科研費の応募支援や研究支援に関する情報が掲載されています。

https://www.osaka-sandai.ac.jp/research/grantinaid_scientific_research.html
【ID: kenkyu パスワード : sanken3001】

これからも、科研費申請や研究に関し、情報共有のためメール発信させていただき、なにか少しでも先生方のお役に立てればと願っております。ご不明点、ご意見、ご希望などございましたら、メールで URA 高木敦子 (8atakagi@cnt.osaka-sandai.ac.jp) まで、お伝えください。
失礼いたします。

<参考資料>

資料 1 : 「基盤研究 (B ・ C) (応募区分 「一般」) 、若手研究の書面審査における評
定基準等」

[https://www.jsps.go.jp/file/storage/grants/j-
grantsinaid/01_seido/03_shinsa/data/r05/r5hyoutei03_ja_general.pdf](https://www.jsps.go.jp/file/storage/grants/j-grantsinaid/01_seido/03_shinsa/data/r05/r5hyoutei03_ja_general.pdf)

資料 2 : KAKEN 科学研究費助成事業データベース

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/>